

研究主題

主体的・協働的に学ぶ児童の育成



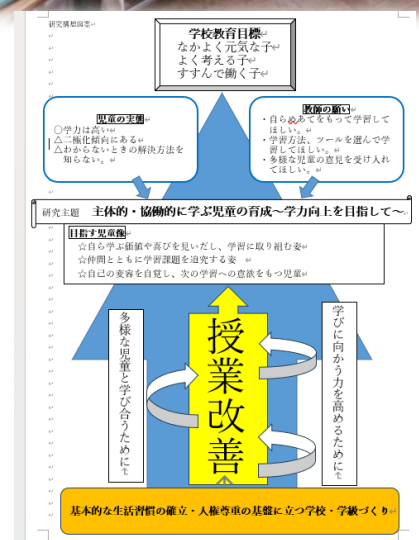
1 研修主題設定の理由

(1) 児童の実態

- 基礎的・基本的な学力が身に付いている児童が多い。
- △学力が二極化傾向にある。
- △わからない問題があったときに解決方法がわからない。

(2) 教師の思い・望む児童像

- ・自らめあてをもって学習に取り組んでほしい
 - ・自ら学習方法や学習ツールを選んで学習してほしい
 - ・多様な友達の意見を取り入れながら、学習してほしい。
- (1)と(2)の理由から上記の主題を設定した。



2 研修内容

(1) 校内研究授業

第6学年の研究授業を実施した。(各グループからの発表：A～Fグループ)

【研究協議】①環境づくりに関して②話し合う目的に関して③その他

- A：①ヒントコーナー、友達と話す環境づくりなど選べる場面があることで、進んで学習できた。
②先生の声かけ、話し合う目的を明確にすれば意味のある話し合いになったのではないか。
- B：①方法の見通しにより自分で選択して活動できていた。選ぶことすらできない下位の児童には、個々で渡せるもの(カード)などがあるとよい。
③ロイロは、図が動くので把握しやすい。ノートは自由に書くことができる。今回はノートを使用するのがよかったのではないか。学習方法の選択をするやり方もある。(自由進度学習、自己決定)
- C：①ヒントコーナーでの記録は残しておけるとよい。
②話し合いの目的では、他の人の意見と比べたい、聞きたいと思える環境になっていた。
③具体物があるとさらに下位の児童はわかりやすかったのではないか。
- D：①ヒントコーナー、問題提起の方法がよい。自分のタイミングで活動できるのがよい。
②比較ができていた。他の意見に自然と吸い取ろうとしていた。話し合いの視点では、どんな種類のものがあるのか聞きたい。
- E：①ヒントコーナーでもわからず、一人で固まっている児童がいる。わからない児童同士でグループをつくり、自然と話し合える環境をつくるべきだったのか。
②目的がバラバラだった。何のために話し合うか提示することで、主体的に話し合えるのではないか。
- F：①教材や環境づくりは十分。同じ土台にたって考えることができる。
提案：学び合いの視点では、自力解決前にこんな風に解いてみようかなという考えを共有する時間をとる。(あの子のやり方、私と似てそうだから、一緒にやろうかな)(何も考えがないから、あの子のやり方を真似してみよう)
→ 個々の1時間の課題を見出せるのではないか。

(2) 指導講評(大下指導主事)

主体的・・・自らの意思や判断に基づいて行動し、自己責任をもつこと。

(大谷選手のごみ拾い)

自主的・・・やるべきことが決まっており、その中で自分から動くこと。(掃除の時間で自分からきれいにする)

・個別最適な学び

- ① 指導の個別化・・・目標は共通。どんな方法でそこに行きつくか。演習問題では、学習の個性化ができそう。(問題選択、別の方法探し)
- ② 学習の個性化・・・個々に目標が決まっており、そのために進んでいく。

・算数の3つのオープン

- ① 解き方いろいろ・・・答えは1つ
- ② 答えいろいろ・・・A?B?なぜそっちを選んだのか
- ③ 問題いろいろ・・・一つの問題を別の問題に作り変える

・授業をつくるうえで、予想される児童の考えは、必ず教師ももっておく。
(正当や誤答など教科書以外の考えも予想する)

・自力解決の前に どうして解けなさそうなのか確認する。
(～が足りない。～がわからないため。)

・間違えないように防ぎたくなる先生の気持ちはわかる。しかし、時にはつまずかせることも必要。どう正しい道にもどるか考える→成長につながる。

(3) 指導講評（日出間先生）

- ・最初にヒントは出しすぎないこと
→ 同じ土台に乗せる→自己の教材選択→話し合う→まとめ→問題（流れはきれいだった）
- ・知識・技能ではなく、見方・考え方の様々な意見を取り上げることが大切。（～とみて、解く。1とみて・2台を1台としてなど）また、算数で使う具体物は、正確なものを使うこと。

3 研修の成果と課題

(1) 成果

- ・東北小授業ベーシックを作成し、授業づくりを行うことで、学級全体で課題を立てる意識が高まった。
- ・めあて、課題、まとめ、振り返り等の意味や目的を共有できた。
- ・学習活動の中で、様々な学び方や思考の流れがあることを知り、教師の児童を見る視点が広がってきた。

(2) 課題

- ・学習内容をすぐ理解する児童もそうでない児童も、45分間思考を働かせ続け、達成感を感じるような展開にすることが難しい。
- ・環境づくりにおいては、研究授業だけで終わるのではなく、日常の学習でも多く活用しなければ意味がない。教材を共有できる環境も整えなければならない。

4 次年度に向けて

本年度は算数科に教科を絞り、研究授業を行った。次年度以降、東北小授業ベーシックをもとに、他教科の授業づくりにも力を入れていく予定である。教師が様々な学習展開の仕方を理解し、児童とともに創り上げていくようにしていきたい。

ご指導いただいた先生方（招聘順）

十文字学園女子大学 人文学部児童教育学科 教授
新座市教育委員会 学校教育部教育支援課指導主事

日出間 均 様
大下 将孝 様

研究に携わった本校教職員

【令和6年度】 ◎研究推進委員長 ○研究主任

校長：齊藤 直之	教頭：石山 勉	教務主任：○岡部 英一
日野加奈子 園田 彩乃	川崎 知宏 前寺英理子	小林 佑香 有坂 亘 矢野 武士
木村 弥生 吉本 清房	茂垣 陽香 萩原 友来	高田 茉那 渡邊 敬弘 榊原 良亮
窪野安希子 堀 美絵	栗山 賢多 有澤 琴美	◎荻野 晋平 梅田 里奈 池田 英晃
齋藤晋太郎 藤田 佳花	村上 辰徳 小松崎拓海	甲賀有希菜 石川 千夏 宇田川明子
元川 淳也 大谷 楓	徳江 雄史 矢部 有	平野 愛以 弘中 幸伸 山崎 萌花
堀 絵美子 関川 達彦	湯浅 学 岩岡 紀子	吉田 由美 根岸 愛美 杉山 春生